

# せわやがトカラ情報

十島村教育委員会  
〒892-0822 鹿児島市泉町 13 番 13 号  
TEL 099-227-9771

南北 160km 「心をつなぎ気概に満ちた」十島の教育

## 7 月・・・18 歳選挙権元年

十島村教育長 有村 孝一

7 月 10 日の鹿児島県知事と参議院議員選挙から、18 歳・19 歳も投票できるようになりました。県内のある高校では、実際の投票箱を使った生徒会役員選挙を選挙管理委員会の指導の下に行ったり、高校の中で不在者投票をできるようにしたり、また、ある市では、市議会議員との意見交換会で、議会の仕組みや役割の説明を行うなど、若者への周知のための活動が行われてきました。

選挙年齢を「20 歳以上」から「18 歳以上」に引き下げる改正公職選挙法は、平成 27 年 7 月に衆院本会議で全会一致により可決し成立しました。これは、1945 年に「25 歳以上」から「20 歳以上」に引き下げられて以来、70 年ぶりの改定となります。18 歳・19 歳の投票率が高くなれば、全体を底上げする効果があると期待されています。

ある新聞によると、東京お台場に「キザニア」という様々な職業を体験できる民間施設が平成 18 年に開業しました。この施設では、開業当時から、修学旅行生を受け入れています。その一角に「選挙ワークショップ」が設けられています。選挙年齢の引き下げを受けて、中学生に選挙を身近に感じてもらうことが目的です。例えば、職員が日本の投票率を質問し、生徒が答えると、世界 5 か国の投票率が壁に映し出されます。その後、日本の投票率を上げるための施策を話し合わせ、最後に、職員が世界で行われている施策や投票率の高い理由を説明しているとのこと。このように、様々なところで、選挙年齢引き下げに関する取組が行われてきています。

今回の選挙では、実際に投票することにより、「社会の一員であることを自覚した。」とか「1 票の重みという言葉の意味が初めて分かった。」等の感想を述べており、制服姿で投票する高校生の新聞の記事を見るにつけて、18 歳選挙権元年の思いを強くしました。

村民の皆さんも、国の新たな取組に注視していただき、村の子どもたちに、今までよりも 2 年早く選挙年齢がやってくるということを伝えていただきたいと思います。

若者の政治参加の拡大につなげるためには、学校

現場などにおける「主権者教育」の充実が期待されています。教育の果たす役割が、また一つ増えました。「高校がないから、まだ先のことだ。」ではなく、島の子どもたちがやがて 18 歳になるという事実をしっかり受け止めて、今から意図的・計画的に指導していかなければならないと思います。十島村の将来は、子どもたちの手にゆだねられているのです。



シリーズ 南日本新聞に投稿  
「この島で教員になれて良かった」  
小宝島中学校 教諭 福田 美優

昨年 4 月から、十島村にある小宝島で期限付き教員として勤務している。学校の先生は、小学校 2 年生のときからずっと憧れ、目指してきた職業だ。初めての島で、初めての仕事。社会人 1 年目の私は、慣れない環境に戸惑いながら、分からないことばかりの日々に必死についていくしかなかった。なりたかった教員だが、働いていることに喜びを感じるまで 1 か月かかった。

しかし、初めての職場がこの島で本当に良かったと思っている。美しい自然に温かい人々、頼りがいのある先輩教員、そして教員になりたいという同じ夢をもつ期限付きの同僚たち。助け合いながら励まし合いながら、子どものため、島のために毎日一生懸命働いている。

「夢や目標をもちなさい。」教頭先生が子どもたちにいつも言っている言葉だ。私は、この島でたくさんのことを学ばせてもらった。「先生」と呼ばれるようになって 1 年と 3 か月が経ったが、やはり素晴らしい職業だと思う。教員を目指して 16 年。今年こそ教員採用試験に合格して、子どもたちに夢を持つことの素晴らしさ、諦めないことの大切さを伝えていきたい。



学校散歩  
◇ある日の平島小・中学校◇



私は、7 月 5 日から、6 日 7 日の県知事選挙・参議院議員選挙（繰り上げ投票）の選挙事務のために平島を訪れていました。選挙も無事終わり、少し

ほっとしていた時、学校から「作文発表会があるけど来ませんか。」というお誘いがあったので、喜んで学校に行ってみました。体育館には、正面に 6 人の児童生徒の作文題が大きく貼られ、会場には 20 人余りの島民が聴きに集まっていました。6 人の児童生徒の元気な発表に、島民も感心した様子で聴き入っていました。子どもたちの成長する姿を先生たちと一緒に見守っている島の雰囲気に触れて、十島村の学校は、日常的に地域が応援団であり、地域に育まれている学校だと思うことでした。（教育総務課 牧元）

## いつも思う

いじめちゃいけないよ  
わる口いっちゃいけないよ  
仲間はずれにしちゃいけないよ  
いつも思う  
あの人がないといいなあ  
などと思ったりする  
心のなかで  
だれかをさべつするきもちが  
むくむくっと  
あたまをもたげる  
かなしいけれど  
これがほんとうのこと  
いつも思う  
わたしだっていやなことしている  
わたしだってきられることしている  
だったらわたしだって  
さべつされるとおもうよ

人権読本「じんけんの詩」より  
編集者 今野敏彦（明石書店）

## 8 月は人権同和問題啓発強調月間 ～人権感覚を高めましょう～

シリーズ——島で暮らす  
悪石島に来て  
悪石島中学校 2 年 宮西 聖典

私は昨年、茨城県から悪石島に来ました。きっかけは、母からの「十島村というところの学校に行ってみないか。」という言葉でした。当時の私は、生活リズムが乱れ、だらしない生活を送っていました。そんな自分を変えたいという思いから、十島村への山海留学を決意しました。昨年の 8 月 29 日、悪石島に着いた私を迎えてくれたのは「仮面神ボゼ」でした。ちょうどボゼ祭りの最中で、公民館に集まっていた島民の前で紹介してもらい、大きな拍手と温かい笑顔に包まれ、小・中学生ともすぐに友だちになることができました。

それからの生活は、とても充実しています。学校では、小中学生関係なく一緒に活動し、授業も少人数

なので分からなければすぐに質問もでき、成績を上げることができました。休みの日は、「魚釣り」や「タケノコ採り」「ツワ採り」など、初めての体験を楽しんでいます。悪石島に来て、自分を変えることができた実感しています。これからも、この島でしか体験できないことに積極的に取り組み、島の一員として頑張っていきたいと思っています。

## 十島村の小・中学校からのメッセージ 中之島中学校 教諭 坂元辰哉

中之島には、樹齢 400 年を超えるガジュマルの樹があります。400 年以上前にここに根付き、様々な自然の厳しさに耐え、少しずつ成長してきたこの樹にそっと手を当てて、その歴史と生命に触れてみると、その圧倒的な存在の大きさから、自分の日々の悩みの小ささに気付かされます。何かしらの物事を成し遂げるためには、「日々の積み重ね」が大切だと思います。私はそのことを理解しているつもりですが、実際はこのことをいい加減にしてしまい、「都合のいい結果」ばかりを求めてしまうことが多々あります。



このガジュマルの樹は、そんな私に優しく微笑みながら「焦ってはいけません。ゆっくり歩みを進めていきなさい。心を込めて誠実に取り組むことが大切だよ。」と諭してくれているような気がします。

中之島に赴任して一年が過ぎました。島民の方々の温かい声かけ、懇親会へのお誘い、海の幸・山の幸の差し入れ、それらの捕り方、季節毎に楽しめる釣り、御岳登山、そして雄大な自然…ここでしか味わうことのできない多くの経験をする事ができています。

また、昨年の 8 月、台風 15 号で大きく被害が出たときに、すぐに復旧作業に取りかかり、「ないもの」ではなく「あるもの」に目を向け、それらを有効に使い、復旧作業を進める島民の方々の力強さから、多くのことを勉強させていただきました。ここ中之島に出会えた奇跡を大切に、教育者として、そして一人の人間として大きく成長できるように、日々の積み重ねを大切にしていきたいと思っています。

## 「教職員仲間であるあなた」への 私からのメッセージ

私が中之島にできる恩返しは、中之島小・中学校の子どもたちのために精一杯を尽くすことだと思います。15 の島立ちを迎えた時、そしていつの日か小・中学校の思い出を振り返った時、「中之島小・中学校を卒業できてよかった。」と思えるように、一日一日を大切に、子どもたちと共にエネルギーに学校生活を過ごしていきたいと思っています。